

好き！

堀田あけみ

—

木曜日のワードプロセッサー

河出書房新社

好

き

堀田

江苏工业学院图书馆

藏书章

日のワードプロセッサー

好き！ 木曜日のワードプロセッサー

一九九二年一月二〇日 初版印刷
一九九二年一月二〇日 初版発行

著者 堀田あけみ

装丁 田淵裕一

発行者 清水 勝

発行所 河出書房新社

〒150 東京都渋谷区千駄ヶ谷二丁目二二

電話 〇三三四〇四二二〇 営業

〇三三四〇四八六一 編集

振替 東京〇一〇八〇二

印刷 享和堂印刷

製本 加藤製本

落丁・乱丁本はお取替えいたします
定価は帯・カバーに表示しています

©1992 Printed in Japan

ISBN 4-309-00742-2

堀田あけみ（はった あけみ）

一九六四年、愛知県生まれ、名古屋大学教育学部を卒業し、現在、名古屋大学大学院博士課程に在学中。専攻は教育心理学。かたわら、名古屋市内の大学、専門学校、の教壇に立っている。

高校二年生のときに書いた『1980 アイコ十六歳』で文藝賞を受賞してデビュー。作品はほかに、『さくら日記』『フェアリーガール』『煙が目にしみる』『イノセントガール』『フェアリーボーイ』『愛をする人』『ボクの憂鬱彼女の思惑』『想い出にならない』などがある。

好き！ 木曜日のワードプロセッサー 目次

- [1] これを書き始めるきっかけのこと 8 山の上ホテルが気持ちよかったということ 10
- [2] 堀田の職業のこと 14 堀田は目先のことしか考えないこと 17
- [3] 読書のこと 18 凝り性のこと 20
- [4] 台風一過のこと 22
- [5] メメント・モリのこと 26
- [6] ニュースのこと 32
- 号外 大阪で学会 35
- 号外 おしっこしてやる！ のこと 36
- [7] 私の手のこと 39
- [8] 再び手のこと 41 くそばあーのこと 42
- [9] 扱いやすい奴のこと 44 木曜日のパワーダウンのこと 47

[10] 時間が経つのが早いこと 48 気になる女性のこと 50

[11] 謎の笠地蔵のこと 52

[12] 成人式に寄せてのこと 56 ちよつとさよならのこと 58

対談 「十年間」 堀田あけみ VS 堀田朱美 59

[13] 視力のこと 66

[14] 四月に思うこと 70

[15] 二日前にニュースで見たこと 75 その後の桜のこと 77 万年筆のこと 77

[16] 最近の風景のこと 80 ここ数日の大変なこと 80 一重に苦しい罪悪感のこと 81

[17] お弁当のこと 84

号外 実家でごろごろ 87

[18] テレビのこと 89

[19] ああ、よかつたのこと 92 私の仕事はよい仕事のこと 94

[20] ウフレレのこと 96 性格についてのこと 97 いいわけのこと 99

- [21] 今週の私は今までと違うんだのこと 101
- [22] 言うてはならんこと 105
- [23] あけみと朱美の間にはのこと 110
- [24] オリンピックのこと 113



- [25] 豊かな一週間のこと 120 「I HAVE A DREAM」のこと 120
「センチメンタル・アマレット・ポジティブ」のこと 124
- 「つたの引力実験室」のこと 125 昨夜のこと 126
- [26] 一年間の体質変化のこと 126
- [27] 夏休みのこと 131
- [28] 私は頭が悪いのかのこと 135
- 号外 東京でお仕事 140
- [29] 思考停止の日々のこと 142
- [糸姫]のこと 123

号外 わたしとみんなのこと 146

[30] ひき続き皆様のご意見のこと 151 今日のこと 153

[31] 私にとつての大事件のこと 154 真実の色のこと 156 懐かしいアリスのこと 157

[32] 夏が終わること 159

[33] 暮らしのリズムのこと 163

最後 あとがきに代える反省の弁のこと 168

あとがき 173

好き！

木曜日のワードプロセッサー



名古屋について、の仕事が多い。

苦手です。やりにくいのに。

一歩も出たことないから。

生活を、他の場所ですることないのに。

ここのこと、わからずか。

どう思うかって、好きだよ。

嫌いなう、とくに

出てまゝとる。

◆これを書き始めるきっかけのこと

昨日まで、東京に行っていました。あちこちの出版社の方と、打ち合わせをする為です。いつも、名古屋に来ていただくことが多いのですが、仕事も溜まっていることだし、各社の方に別個に名古屋に来ていただくよりは、堀田一人が東京へ出てった方が、なんぼか合理的であると。

そこで、十年来お世話になっている河出書房の福島さんとも、お話したわけですよ。

堀田の本には、いつもあとがきがついてます。ハードカバーの単行本で、案外、あとがきありませんよね。まあ、堀田の本は、あとがきが好評みたいです。あとがきが一番好きだっていうお手紙も、何通かいただきました。堀田は、ここで厳かに問いたい。本編の立場はっ！

堀田のあとがきというのは、その本についてのことよりも、近況報告なのですが、福島さんは、すごく善意に、「これは読者へのメッセージだ」という、かっこいい解釈をしてくださっているようです。このメッセージで、一冊本が作れますよ。

おだてに弱い堀田であった。

だいたい堀田は、エッセイが苦手だ。三冊目と四冊目の本は、書きおろしのエ

ッセイ集だったけど、書いてて楽しくなかった。小説だって、私、文章下手だし、書いてて苦しいことも多いけど、好きなことやってるかなって充実感が、なものにも変えがたいです。エッセイのとき、それを感じることができなくて辛かったのを覚えています。それから、小説っていうのは完全なフィクションで、その世界は私にしか創れなくて、幾ら信頼している担当さんでも、勝手に創り変えることはできないし、そういうことをしようという担当さんにも、幸せな堀田は会ったことがあります。でもエッセイは、どうしてもテーマが本当のことになり、それは担当さんとも共有してる世界だから、結構、介入できます。当時の私は、まだ子どもで、海千山千の担当さんから、ここはこう変えよう、題はこうしようといわれたら、経験豊かな方が、私のことを思ってたってくださることに、間違いのあるう筈がない、と思い込んでいたのです。私はこうしたいんだ、というのを、きちんと伝えないと後悔する、と知らなかったのです。だから、エッセイ嫌いは自業自得なのでした。

けれど、お話しているうちに、もともとお調子ものの堀田ですから、いろいろ、思いついちゃうわけですよ、

書きおろしだから、いけなかったんじゃないかとか。

一週間に一回ぐらいなら、書けるんじゃないかとか。

おこがましくも「作家」の気持ちで書くから、いけないんで、いっそ気分を変えて、ワープロ使ったら（原稿は鉛筆でないと書けません。大学院生として、論文を書くときにはワープロ）、書けるんじゃないかとか。大きな声では言えない

①それを誤魔化す為に、無理に自分をハイな状態に持って行っているから、今読むと痛々しいような気がする。

②もちろん、担当さんはとてもいい人だった。

ことを、活字にするのもどうかと思うが、論文書くよりは、楽だろう。

と、とんとん拍子に考えはまとまって、口に出してみたら、とんとん拍子に話もまとまったのです。

で、一週間に一回を何曜日にするか。これも、とんとん拍子にきまりです。私は、月・火・水・土と授業を受けています。木曜日には、専門学校で授業をします。木曜日から金曜日にかけての、比較的のんびりした時間のなかに入れるのが正解でしょう。そこで、木曜日の午後を、この仕事に当てることにしました。

木曜日のワープロ日記。

最初はそうしようと思いましたが、けれど、あんまり単純ですよね。センスもあるとはいいたい。だいたい、日記は人に見せるものじゃない。それに、私は四文字の略語って、あんまり好きではないです。セクハラとか。

というわけで、こうなりました。これが、最初の木曜日。

これは、まえがきに使えるな。ふむ。

◆山の上ホテルが気持ちよかったということ

今回、東京では、山の上ホテルという、立派なホテルに泊まりました。

最初、どうせあいてねーだろーなーと思いつつ、生協の宿・コープイン渋谷に予約を申し込みました。私、ピンボ性ですから（貧乏ともいう）。もちろんあいてない。

どうしようかなーと置いていたら、かーかみ先輩という人が、「短期なら、思

③この時点では、「木曜日のワイドプロセッサ」をメインタイトルにするつもりだった。

①なんだかんだでこの一年ちょっとに五回も泊まってしまった。だから、今となってはこのはしゃぎようが、今ひとつびんと来ない。こういうのって、寂しいんで嫌いだ。この年齢になると、しょっちゅうあるけど。

②「君は優しい心理学」「想い出にならない」という私の作品に登場する鬼奴（おにんど）一平のモデルで、大学院の一年先輩。かれこれ九年前に、ほぼ出会った瞬間からどつき漫才を始め、お互いの恋人は代替わりしても、相手としては現在に至っている。「敏江・令児」とも言われているし、最近じゃ、「すすめ！パイレーツ」の犬井と猿山とまで言われている。本人達は「傷だらけの天使」のショーケンと水谷豊のつもりなんだけどな。

い切ってええと泊まって、ゆっくりしたら」と、他人ごとだと思って、アドバイスしてくださいました。

よく考えたら、罰はあたんねーよな。この夏、よく働いたし。原稿も沢山書いたし、大学院の合宿も計画して、ちゃんと無事に行って帰ったもんなん。参加者少なかったし、台風にも遭ったけど。

私、過去に一度、ここに泊まっています。どうしても原稿^③が書けなくて。ここで書いてました。原稿書き上げて、ホテルを出るときに、いつか自前でここに泊まったるぞ、と決心したものです。どてらい男ね。おお、今こそ、泊まったろやないけ、年收だって、当時の倍だ（如何に最近稼いでいるかではなく、当時稼げなかったかを明らかにしただけの文よね。哀愁感じるわ）。それに、あのとき食べた朝ご飯がもっかい食べたいんだあつ。

どうせ空いてないだろうけど、電話してみよ。と、「小説^⑤すばる」を出して、左端についている広告の「予約直通」んとこを回しました。

あいてたんだな、これが。

というわけで、そこに決めました。後から考えると、コープイン渋谷が一杯だったおかげで、思い切りいい気持ちになれたわけで、本当によかったなあなんて、思う理由は以下の通りです。

① お部屋が気持ちいい

これが、ホテルの基本です。ここは、森林浴みたいな空気が、特別に部屋のなかに通されているそうです。私は、鈍だから、それを感じとることまではできな

③ 主婦の友社から出ている「ef」という雑誌の原稿。六人の作家が月に一編ずつ短編を書いた。あとの五人は、山川健一さん・佐藤正午さん・原田宗典さん・川西蘭さん・山田詠美さん。とにかくプレッシャーだけで死ぬかと思った。まだ二十二歳だったし、正確に言うとうと、二つも没くった上で完成した作品があったので、東京に持ってって、その日のうちに帰れた筈が、原稿を実家に忘れてきたのである。その後、「リエゾン」という単行本になった。私の初めての恋愛小説だ。「私に恋愛小説は向いてない」と思ったのを憶えている。

④ 西郷輝彦主演のテレビドラマ。これで「どてらいヤツ」と読む。私が小学生の頃に放映していた筈だ。布団の中でふすまの向こうから聞こえる主題歌を耳にしていた記憶がある。そして、主題歌は西郷輝彦の「よお

② ベッドが気持ちいい

つづいて基本です。お布団が気持ちいい。薄くってふわふわしてる。羽毛なのかな？ 普段縁がないもんで。ようわからんのですが。それから、枕。そばがらのと、羽みたいなのと、二つありました。ただ、よく陽に乾してあるだけを取り柄の布団に慣れているせいかな、気持ちがいいのは眠るまで。寝付いてからは、うなされてしまった。

③ お風呂が気持ちいい

つるつるしてるんだもん、だって。

④ コップが気持ちいい。

ごく普通の硝子のコップ。白で「Room」って書いてあるの。冷蔵庫の上のは、文字のとこだけ、磨り硝子になっていた。各社の担当さんたちにいただいた本が重いので、宅急便で家に送ったんだけど、箱が大きいから、かなり余裕があったの。このコップと、あと、大きめのふわふわバスタオルと、入れたくてまんなかったぞい。我慢したけど。

⑤ お水が気持ちいい

二日めの夜、咽喉が渴いたから、枕元のポットから水を飲みました。すごく冷たい。おいしいお水でした。その時は、唇を湿す程度にしか飲まなかったの
で、もう一度、今度は沢山コップに注ぐと、水の音がしました。味は、丸いよう

「よし、やったるわい！」という
気合いの入った叫び声で始まる
のだった。

⑤ いっつも手書き文字の広告がついている。

な気がしたので、ミネラルウォーターでしょうか。なんで、一日めは飲まなかったんだろう。と考えるのが、ビンボだというに。

⑥絵はがきが気持ちいい

どのホテルにもある絵はがきです。これが、ここのは八枚組でかつこいいです。

⑦玄関が気持ちいい

本館の玄関に入りたくて、コーヒーパーラーに行きました。トイレもかっこいいです。

⑧朝ご飯が気持ちいい

高いから当然といえば、それまでだ。でも、誰がなんと言ったって、私はこのクロワッサンが大好きである。

こういう気持ちいい場所に泊まって、一番気持ちいいのは、でも、自分ちに帰って、ここもとても気持ちいいやあって思っ、自分が墮落してないことを、確認するときだったりします。高かったけど、英気は充分養えた気がする。

今日から、あっつい名古屋にて、元気に頑張ります。っていう気分です。もう、二学期も始まることだし。

来週から、これを書くのは、授業の後ですね。そうなると、授業に関することが多くなるかもしれない。それもいいと思います。私の教えている、二十歳前後の人たちへの、それこそ「メッセージ」になるかもしれない。

でも、あんまり期待しないでね。私、ちゃんぼらんだから。

⑥今、考えると違う気もする。とにかく、名古屋の水道水とは違う味だったのだが、その後、東京の水道水と名古屋の水道水は味が違うことに気付いた。

何より嘘つきだから。

だから、本当のこと書かなきゃいけないエッセイは苦手なんだよお。

木曜日のワードプロセッサー その二

一九九〇年九月六日

◆堀田の職業のこと

今日、久しぶりに授業をしました。堀田は、毎日、大学院に通っています。授業がなくても、他にやんなきゃいけないことは、次から次へと湧いてきます。ちなみに、日曜・祝日は休みます。で、木曜日の午前中は、専門学校で「乳幼児心理学」という講義を持っていて、今日は、七月五日以来の授業だったのですが。

四月以来、初めて怒鳴っちゃったよ、あたしゃ。

今日が、休み明け初の登校日だったそうぞ。あれは、ちょっと我慢できなかった。^①

それは、別にいいです。堀田は、税金納めるときとか、肩書きのところに「作家」って書きます。まだ、自分のことそう呼ぶのは照れくさいんだけど、作家、だよな。

これは、かっこいいんだけど、困った肩書きです。基本的には、自由業なので、今一つ信用がない。親戚とか近所の人からは、いつまでも就職せんと、あいつは何やっとなるだ、と思われているに違いない。実際、この盆に親戚の人から「朱美ちゃんは（朱美、というのは私の本名です）何やっとなるだね」と言われて、

①話の内容が聞こえるくらいでかい声の雑談が、少なくとも三組はあった。